

個が生きる音楽科の授業

井坂雅浩
真田美智子

1. 個が生きる音楽科授業

(1) これまでの研究経過

音楽科では過去3年間、めあてを育て、音楽表現を追求し達成する場をどのように構成したらよいかについて研究を重ねてきた。

1年次	学習のめあてを育てる音楽科指導
2年次	よろこびをもって表現活動を追求する音楽科学習
3年次	学習のめあてを達成する子どもの育成

めあてを持って取り組ませる場の構成の条件としては、

- | |
|----------------------|
| ① 安心して自分を出せる学級づくり |
| ② 一人ひとりの実態に応じた学習指導 |
| ③ 向上が意識できる場（評価の場）の設定 |

の三点を考え、授業づくりにあたってきた。そこで重要なことは、めあてを持って学習するのは、子ども一人ひとりであるという点である。となると当然、授業評価も、「一人ひとりの子どもが」どのように感じ、表現し活動して、どこまで高まったかが大切である。そこで、これまで以上に個々の子どもに焦点をあてた授業づくりや授業評価を考えていく必要がある。

(2) 音楽科における「個」のとらえ方

子どもの音楽経験は一人ひとり異なった背景のもとに成立しており、音楽に対する興味・関心・表現力・鑑賞力・意欲・態度などは、どれ1つ取り上げてみても子どもによって異なっている。

音楽を好むが、楽器の演奏が不得意な子ども、楽器を上手に演奏することは不得意だが、音づくりや音の工夫をする時に力を発揮する子ども、表情豊かに表現する子ども等、様々である。

私たちは、一人ひとりの子どもが自分の持つ力を発揮しながら、よりその音楽性を高めていく指導をめざしている。そのためには、一人ひとりの音楽的な背景や、音楽性をできるだけ深くとらえる必要がある。つまり、一人ひとりをいかにとらえるか、そのとらえ方が問題である。表現技能や知識・理解は表面にあらわれやすく、一見とらえやすいが、その内にある一人ひとりの感じ方や感受性、表現意欲までも含めた「個」をとらえていかなければならない。さらに、このような音楽性は、互いに楽しい音楽活動をする中で育てていくものと考えている。

(3) 個と集団の関わり

楽しい音楽活動を生み出すためには、鍵盤ハーモニカや縦笛の個別指導も大切である。しかし、歌ったり、演奏したり、聴き合ったりして、共に表現することの中に、音楽科授業の意義がある。従って、先に述べた個々の音楽に対する表われ方を認め合う場を設定していかねばならない。

このように互いの音楽性を認め合う場の中でこそ、音楽に対する個々の違いを意欲化することができると考えている。

このような考え方をもとに、本年度のテーマを「個が生きる音楽科授業」と設定し、

個がめあてを持って音楽活動を追求し、集団との関わりの中で、感じ方や表現を認め合い
深め合いながら、一人ひとりの音楽性を発揮し、育てていく授業のあり方

を模索する。

(4) 個が生きる授業の条件

① 安心して自分を出せる学級の人間関係を育てる。

学級における音楽科の学習は、常に他（友達や教師）と関わり合う中で音楽活動をしていくという特性を持っている。自分の歌声や演奏を常に自分で評価したり、あるいは他人に評価されながら活動する。また、合唱や合奏のように学級全体やグループで1つの表現をねり上げる活動も多い。そこでは協力、支持、容認が求められる。

従って、自分の思いや感じ方を素直に表現できるような、安心感のある、協力的な、信頼感の持てる学級の人間関係を形成する必要がある。

② 個をとらえるための手だてを持つ。

児童の音楽経験、音楽に対する関心、音楽の感じ方、表現技能には個人差がある。個が生きる授業づくりをするためには、個々の子どもの音楽性の把握が不可欠である。これまでの音楽経験や表現技能は客観的にとらえられやすいが、表面にあらわれにくい内面の感じ方や、個の中での変容にも注意を向ける必要がある。そのためには、観察法による座席表への記録、カルテ作り、評価カードの工夫等、できるだけ深く子どもを理解する手だてを持たなければならない。

③ 魅力的で、幅広い音楽性を培うための教材を用意する。

音楽へのアプローチの方法は1つとは限らない。この歌が歌えなければ音楽を楽しめない、この音楽で曲が演奏できなければ音楽に親しめない、とは考えていない。音楽活動は多様で幅広い。さまざまな特性や個性を持つ子どもに対応できるような教材を題材として学習活動を構成していきたい。そこで、教材選択の条件として、次の諸点を考えている。

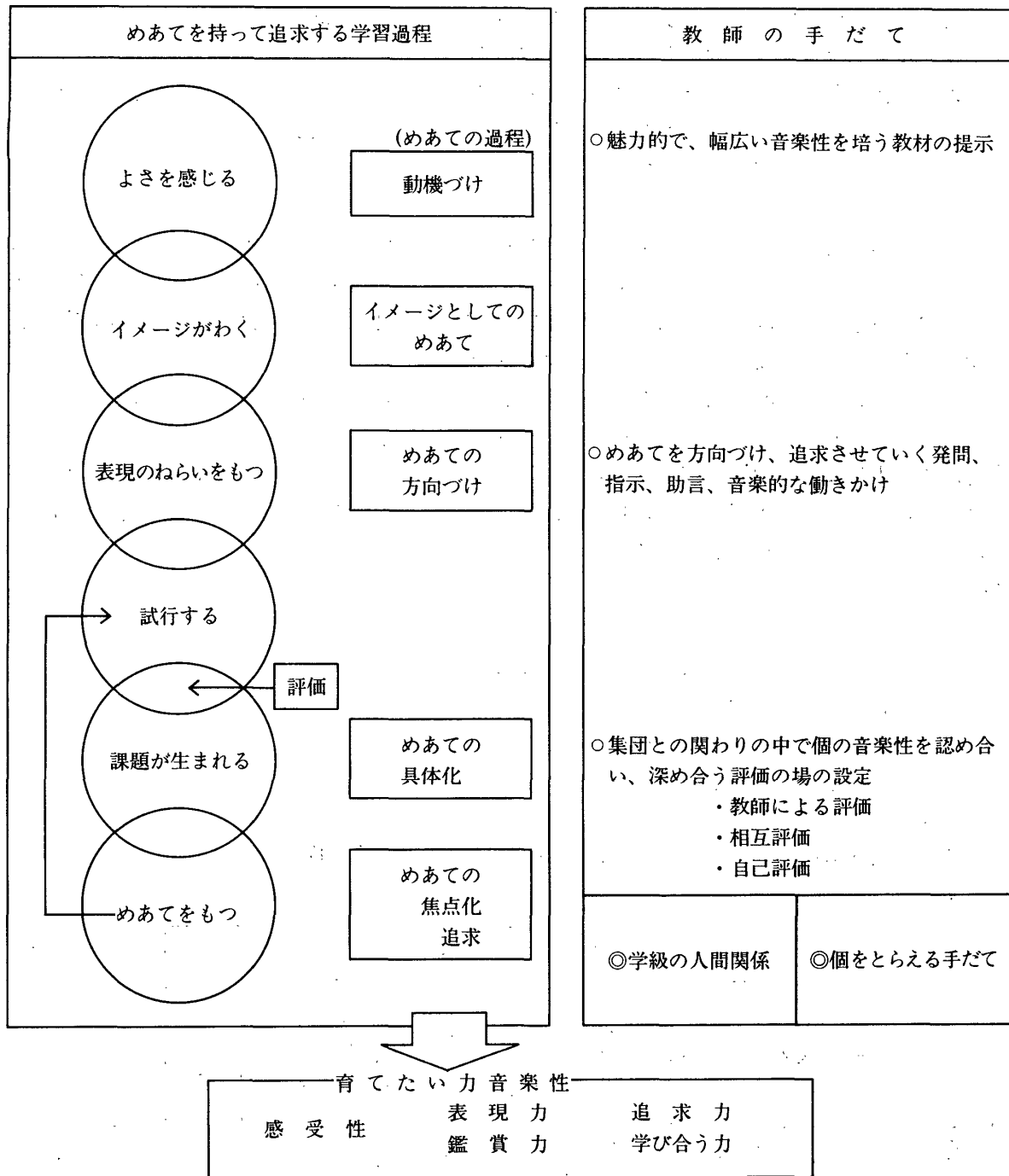
- ・子どもの発達段階に即していること
- ・子どもがめあてを持って音楽性を追求できること
- ・活動の結果として、表現力や鑑賞力などの音楽性が育てられること
- ・音楽活動に対する満足感や達成感が味わえること

④ 向上が意識できる評価の場を設定する。

音楽科において、児童の学習意欲はその指導過程における評価活動に深い関わりを持っている。認められることは、喜びや自信にもつながり、またやってみようという意欲も引き起こす。

また、適切な評価活動をするためには、明確な評価の観点が必要である。さらにできた、できないという技能的な面や態度面からのみ評価するのではなく、「こんな声が曲の感じに合っている」とか「もっと強弱の変化をつけた方が美しい」とかいった音楽的な価値の深まる評価の場を設定したい。このような評価は、できたかどうかという技能的な評価に比べて、個々の感じ方や聴き方、イメージなどによって違いがみられると考えられる。その違いをお互いに出し合い、感じ合う中で、互いの音楽性を認め合わせたい。

個が生きる音楽科授業の構想をまとめたものが次の図である。



これは、音楽科授業をすべてこのような流れのパターンで進めることではない。学年段階や題材の特性によって、当然違いがみられるであろうし、修正も必要である。しかし、個がめあてを持って追求していく上での基本のプロセスであると考えている。

以上のことを基本にしながら、具体的な授業を通して、個が集団との関わりの中で、どのようにめあてを持って追求したかについて研究を進めていきたい。

2. 実践事例 複式高学年「音楽でうちゅうを表そう」

(1) 実践にあたって

科学技術の進歩発展により宇宙は我々の身近なものになってきたが、それだけに一層夢も広が

り神秘のかなたに思いをはせたりもするのである。本学級の児童は、これまでも「ふし創りアンサンブルをしよう」や「強弱を表す音楽を作ろう」などで創造的な音楽学習の経験があるが、今回のように具体的なものをテーマにしたものは初めてである。したがって今までとはひと味ちがったものができるのではないかと予想されるが、楽器の音色・奏法や音階・リズムなど固定観念にしばられていない児童の自由で個性的な発想が、宇宙へのあこがれと結びつき素直に表現できるようにさせたい。

また、個の発想やアイデアがグループのメンバーの共感を得て、よりよい表現へと発展するようにさせたい。そのために、個々のイメージが音とどのように結び付くのかをグループで表現したものの録音を聴き、話し合っ訂正しながら、よりよい音としてのまとまりにする場を設ける。また、それを発表する場を設け、良さを認め合う場も設ける。

本単元では、「星の歌」片岡輝作詞・岩河三郎作曲、鑑賞曲「未知とのそうぐう」ジョン・ウィリアムズ作曲を教材曲として扱うが、特に「うちゅうの感じの音楽を創ってみよう」という活動を組むことにより、児童の宇宙への夢・あこがれ・ロマンといった思いが曲想表現にも生かされやすいのではないかと考えた。合わせて、創造的活動を通して豊かな発想を引き出し、自由に表現する感覚を養いたいと意図している。

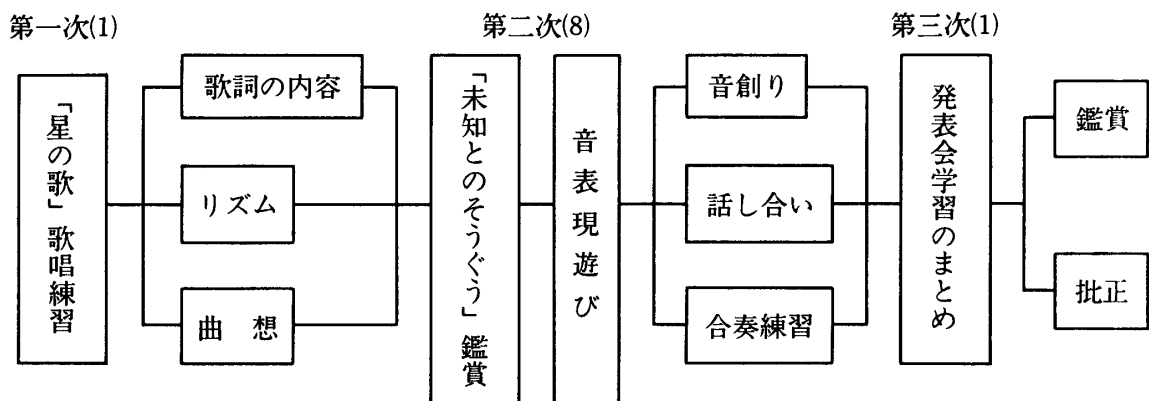
(2) 実践の概要

① 指導目標

1. 歌詞の内容を理解して、のびのびと歌わせる。
2. 楽器の音色、組合せを工夫して合奏させる。
3. 自由に音を使って表現遊びをさせる。
4. 新しい感じの音色をもつ音楽を味わわせる。

② 指導計画

指導内容と計画……………10時間（本時 第三次第1時）



③ 指導の実際

ア、前時までについて（音創りをする場）

第二次では、「未知とのそうぐう」を鑑賞した後、「うちゅうを表す音楽を創ろう」という学習を展開したのだが、「未知とのそうぐう」を鑑賞させる際、「宇宙の電波を聞く無線のレシーバーを耳にあてると、人類の出した電波ではない不思議な電波が、われわれの太陽系や、太陽系以外のはるか遠くの宇宙からも聞こえてくる。そんな不思議な宇宙の音を、作曲者はシンセサイザーを使って表現している。」という話しをして聴かせた。鑑賞した後、音楽を聴いて感じたことや、個人個人の宇宙への思いを話し合わせたのだが、「カッコいい音楽だった」「ナウイ」という漠然とした感想が多かったので、この音楽のどんなところがカッコいいのかを重ね

て質問し、「音色そのものがナウくてカッコいい」「音がいっぱい重なって、すごく広がりがあるとところがカッコいい」「小さな音がピーと鳴って、静けさがあるところがいい」といったこの曲の特長や良さを子どもなりに具体的につかませた。しかし、宇宙に対する思いといったものがほとんど意見としてでなかったので、ホルスト作曲の組曲「惑星」の中から「この音楽は、太陽系の惑星を表わしたものです。どの惑星を表したものでしょう。」と言って「金星」「土星」「木星」の三曲を名前をふせて聴かせ、「とてもはげしいから、赤い金星じゃないか」「すごく派手な音楽だから、太陽系で一番大きい木星だと思う」といった、その子なりに今までの生活経験や獲得している知識や情報から思い描くイメージや、一人ひとりの思いを引き出した。

そして、音楽で何かを表現しようとするときは、どんな様子を表したいのかをはっきりさせることが大変重要であることをおさえて次の「うちゅうを表す音楽を作る」学習に移った。

本学級は、5年男子5名・6年男子4名・5年女子5名・6年女子4名の計18名の複式学級である。それをA（5男3名・6男2名）、B（5男2名・6男2名）、C（5女3名・6女2名）、D（5女2名・6女2名）の4つのグループに分け、グループで表したい様子やイメージを話し合わせ、それを音楽で表現させることにした。

音楽作りをさせる際に教師が示した条件は、過去に「ふし作りアンサンブルをしよう」「強弱を表す音楽を創ろう」などで音楽作りを学習したことを踏まえて、次の4点である。

- ①曲の長さは、約1分程度。長くても2分までにまとめること。
- ②音楽の流れにおいて、強（激しい部分）と弱（静かな部分）を入れること。
- ③楽器の重ね方（バランス）を工夫すること。
- ④楽器の奏法を工夫すること。

子どもたちは、どんな宇宙の様子にするかストーリーを話し合ったり、どの楽器を使うかを話し合って音楽作りを始めた。教師としては、どんな様子を表したのかがはっきりしていないとまとまりのある音楽にはなりにくいという考えが働き、話し合いを十分させようとしたのだが、子どもたちは施行錯誤しながらだんだんまとめていく方が良いというグループや、ストーリーが膨らみすぎてそれをどう絞ってまとめたら良いのかなかなか話し合いがつかないグループなどさまざまで、子どもたちのペースにまかせることにした。

しかし、せっかく考えたことを再現可能なものにするために図形や記号を使っての楽譜に毎時間書き加えさせていく段階で、教師がアドバイスしたり相談に乗るようにした。

そうして、ある程度まとまってきた段階で中間発表の場を設け、各グループの演奏を聴きあって感想を話し合わせた。中間発表でCグループは、時間が長すぎる・同じ事の繰り返しが多すぎる・パラダイス銀河のテーマが途中ちょっと出てくる部分があるが、突然出てくるのでやめた方がいい。という意見が出たため大幅改訂をしたが、他のグループは、少し直す程度で本時の発表会の場を向かえた。

イ、本時について（発表会の場）

本時の目標

グループで表現する音楽が、自分たちのイメージに合ったまとまりのあるものになるよう工夫させる。

準備

各グループ使用の楽器、ストップウォッチ、学習カード、録音テープ

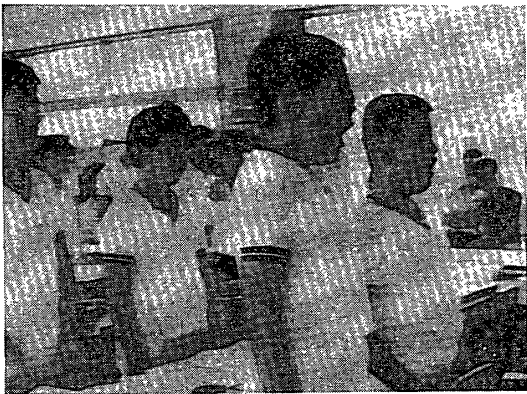
評価の観点

表現の能力	歌	唱	
	器	楽	イメージした音楽を楽器で演奏することができる。
	即興表現		イメージしたものに合った音を選んで演奏することができる。
鑑賞の能力			他のグループの演奏も含めて、良い点や改善点を指摘できる。
音楽に対する関心・態度			イメージに合わせた音楽創りに意欲的に取り組むことができる。

指導過程

学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 「亜麻色の風の中へ」を歌う</p> <pre> graph TD A[「亜麻色の風の中へ」を歌う] --> B[練習] A --> C[修正] B --> D[発表の準備をする] C --> D </pre> <p>2. 発表の準備をする</p> <pre> graph TD D[発表の準備をする] --> E[工夫した点を学習カードにまとめる] D --> F[楽器の準備] E --> G[各グループごとに発表する] F --> G </pre> <p>3. 各グループごとに発表する</p> <pre> graph TD G[各グループごとに発表する] --> H[演奏する] G --> I[感想を書く] H --> J[本時のまとめをする] I --> J </pre> <p>4. 本時のまとめをする</p> <pre> graph TD J[本時のまとめをする] --> K[感想を発表する] J --> L[反省をまとめる] </pre>	<p>1. この特性に応じた歌い方の工夫をさせ、集団としての個性ある表現に発展するよう指導と評価をする。</p> <p>2. 自分たちのイメージしたことを音に表現するのに、どう工夫したかを書くことにより明確にもたせ、それがよりよい音としてのまとまりに結び付くようにさせる。またそれが、3. での聴く側の観点にもなることをあらかじめ告げておく。</p> <p>3. 練習の必要があればさせるなど、必要以上の緊張感を取り除き、リラックスして発表させる。また、良いと思われる表現に注意をして感想を書かせるようにさせる。</p> <p>4. 自分の役割に努力している姿勢や、表現での改善点など評価に留意する。</p>

音楽科授業研究「音楽で宇宙を表そう」(授業記録)

分	発問	主な児童の反応&気づき
00	<p>今日は、たくさんの先生方がおられます。</p> <p>亜麻色の風の中にを歌いましょう。</p> <p>**歌唱**</p>	<p>「やったー」</p>
02	<p>音程はよくなったんだけど、胸をはっていません。</p> <p>やや声がどぎつい声がまだなおっていないね、柔らかく歌おう。</p> <p>あくびのときの口の開け方があるでしょう。あくびでは、声が出ませんから、声を出す時との中の口の形の感じで歌いましょう。あくびの口の形をやってみてごらん。</p> <p>「またいきたいな」のところを口のかたちを気を付けて、なめらかに。</p> <p>*高音のパート*</p> <p>音をのびしながらなめらかに</p> <p>*範唱をまじえて</p> <p>言葉のおわりをなめらかに。</p> <p>「えーえ」と変わり目をはっきりつけるように・終わり方をなめらかに。</p>	<p>IさんMさん「あーあー」とうなずく。</p> <p>*この時の教師の指導の意図は？</p> <p>*よい例を児童の中より抽出して個を生かす指導も可能ではないか。</p> <p>Mさんの声がよくなってきている。</p> <p>*高音の練習での評価</p>
05	<p>のどに力を入れないで「えー」を歌う。(音程のつながり)</p> <p>もう一度「柔らかく、とろけるような声で歌いましょう。」</p> <p>**歌唱**</p> <p>「はい、よろしい。」</p> <p>「やや感じがつかめてきたね。」</p> <p>「I君Mさんよく声のでていたね。」</p>	
08	<p>「もう少し柔らかかみがでるといいね」</p>	

<p>09</p> <p>10</p> <p>20</p> <p>25</p> <p>30</p> <p>32</p>	<p>「さて、今日は今までやってきたことの発表会です。席をグループごとに合わせて下さい」</p> <p>〈配る〉</p> <p>「今日は今まで工夫してやってきたことを発表するわけですが、聞いてもらう人によくわかるように説明しましょう。」</p> <p>「6年生が、まとめてかきましよう。短くてもいいから。」</p> <p>ひとりひとりの所は、自分がどんな楽器をしているか、一人ずつが自分はどんな音を表そうとしているか、どういう演奏をしているか書きましよう。</p> <p>5分で書きましよう。」</p> <p>**机間巡視**</p> <p>途中で音楽が変わったかもしれませんが最初に表そうとしたことでもいいですよ。</p> <p>**机間巡視**</p> <p>ここは簡単にどういうことを表しているか、どんな所に気をつけているか、書くんですよ。</p> <p>個条書きにして発表しやすくしてもいいですよ。</p> <p>**楽譜を貼る。**</p> <p>各グループごとに発表してください。書いてあることを発表してください。</p> <p>***発表***</p> <p>*感想用紙を配布（グループ名指定）*</p> <p>**B演奏**</p> <p>この楽譜をみて何か聞いてみたいことはありませんか。わかりましたか。とてもいい音楽だったね。あとでいいましようね。</p> <p>**演奏**</p> <p>A : 32-35, C : 36-40, D : 41-44,</p>	<p>〈児童の話し合いの様子〉</p> <p>*A*</p> <p>N君が中心になって記入していた。</p> <p>M君「ひとつつけさせて」</p> <p>「ウィー」の人数を増やそうと提案</p> <p>「本気でやるん？」</p> <p>演奏を意外に感じている雰囲気</p> <p>*B*</p> <p>何を書こうか迷っている。</p> <p>「どうしよう」「何も考えてなかった」</p> <p>「僕は何を表しとるかいねえ」</p> <p>「みんなでひとつなのでかけん。」</p> <p>「はじめからめちゃくちゃなんじゃけえ」</p> <p>*C*</p> <p>どの惑星のイメージなのか話し合っていた。</p> <p>「土星」「木星」「惑星でいいじゃん」</p> <p>「変動するんでしょう」</p> <p>「最後に変動やむんでしよう」</p> <p>・流れの確認</p> <p>「トライアングル、ティンパニーは変動を表してるんでしょう」</p> <p>「ツリーチャイムは土星を表しているんでしょう」</p> <p>「とにかく最後をまとめんにゃあ」</p> <p>IさんMさん楽器の移り方の確認</p> <p>*D*</p> <p>Kさんを中心に話をしながら記入している。</p> <p>個人の記入もスムーズに</p> <p>記入後曲の流れの確認（間のとりかた）</p> <p>5年生の演奏を中心に</p>
---	---	--

- 44 自分のグループ以外については感想を書いていると思います。
- 時間がないので、今度の時にみんなに発表を言ってもらうことにして、今日は、先生の聞いた感想だけをお話しして終わりたいと思います。
- A：ひとりひとりが、一つ一つの音を出すのにとっても注意を払って演奏していた様子がよくみえました。音を出す大きさを全体のバランスを考えて気を付けてだしているな。音としてのまとまりもたいへんよかったとおもいます。最後は、ユーモラスな工夫をしていましたし、ユニークなとってもいい演奏だったと思います。
- B：今までに音楽を何度もつくりかえたり、苦勞していましたが今日の演奏は、全体的な音のまとまりとしてとってもよかったと思います。静かな音楽という漠然としたイメージだったので全体的に変化があまりなかったので、少しでも一部分に変化があると、音楽としてのまとまりがでてきてよくなるのではないかと、思いました。ひとり一人の楽器の扱い方もとてもよかったですね。
- C：音の強弱や、節や、リズムの変化を工夫して、説明にもあった土星の感じが聞いていてなるほどなという感じがしました。音楽として、たいへんよくまとまっているなと思いました。
- D：音楽の始まり方、音が一つずつふえていくという工夫をしていて、音が増していく音の大きさも大きくなるというところ。ブラックホールを表しているところなどとても不安な感じのメロディをひいていましたが、そこが、なるほどこわそうなところだなあとよく表現されていたと思います。
- 47 言い足りないこともあります。いい音楽が、四つのグループができるようになったんだなあと思います。もっともっと工夫して、知恵を出し合ってまたこのような学習をしていこうと思います。この経験を生かしていきましょう。
- 今日の勉強は、これで終わらしましょう。

次のページから各グループの演奏した図形による楽譜と発表カードを載せておく。



Aグループ

宇宙の様子を表そう
 物語(宇宙の神秘)

		10	10	20	5	5
鉄さん (A)	高い音 低い音 ゆみ	たたく (高)	たたく (高)	たたく	休	たたく
トライアングル (B)	小さく 連打	(大)	ひびく	> >	休	宇宙人の声
ツリチャム (C)	たたく	[Bar graph]		[Bar graph]	つづつ たたく	
ティンパニー (D)	れん打	(大)	(小) (小) (小) (小)	れんだ → (中)	休	ワイ
シンバル (E)	ゆみ	(小) たたく	(小) たたく	ゆみ ゆみ たたく	休	小さく

—音楽で宇宙を表そう— 発表会

自分たちのグループの音楽は、宇宙のどんなようすを表しているのか、聞く人が分かるように説明しましょう。

宇宙の静かで、神秘的な
 ようすを表していて、宇
 宙人もでる。

自分が演奏する楽器は何を表しているのか、あるいはどんな感じを表したいか。

—ひとりひとこと—

A男 宇宙の静かな感じ

C男 宇宙にある屋のかげやま

E男 宇宙にたどよう電波

D男 宇宙のいん

B男 宇宙のティンパニー

Bグループ

宇宙の様子を表そう
物語 (星の静かな宇宙)

F (オルカン)

G (鉄 さん)

H (シンバル)

I (ツリー
タイム)

5-6秒 5-6秒 4秒 20秒 10秒

—音楽で宇宙を表そう— 発表会

自分たちのグループの音楽は、宇宙のどんなようすを表しているのか、聞く人が分かるように説明しましょう。

静かな宇宙、同じことがくりかえされるようで
おもしろいことがあつてゆく

自分が演奏する楽器は何を表しているのか、あるいはどんな感じを表したいか。
—ひとりひとこと—

オルカ F男 高い音をたくさん出して、宇宙の静かな感じを表したいです

鉄 G男 宇宙のどんばをわらわしたかったです

シンバ H男 宇宙のやわらかいようなおとをもちたいです

ツリー I男 ぼくはしずかにとおりさるながれはしや光か、いる星をひらげんします

Cグループ

宇宙の様子を表そう
 物音(静かな宇宙(土星)) → はげしくなる。 → 静かになっていく。

ツリータイム (A)					
ティンパニー (B)			(4回くりかえす)		
大だいこ オルガン(ちさん) (C)	メロディ (りうりら)			(大だいこ)	
木きょうん シンバル (D)					
オルガン (E)	メロディ (4回)			メロディ 音楽 ヤラシラシラ	

ひびきあがる

—音楽で宇宙を表そう— 発表会

自分たちのグループの音楽は、宇宙のどんなようすを表しているのか、聞く人が分かるように説明しましょう。

やさしく 静かな土星みたいな惑星をイメージした。そして惑星にも変動がおこって、それがあわってまた静かになるまで”

自分が演奏する楽器は何を表しているのか、あるいはどんな感じを表したいか。
 —ひとりひとこと—

C子 大だいこefo...
 変動のときを勝手に”

B子 トリツケルは だしく静かなイメージで、ティンパニーと大だいこは 火星をあらわす。

D子 シンバルは 変動のいちぶぶん。

A子 ツリータイムとティンパニーも演奏します。土星と火星の感じも表したいという

E子 オルガンで 2回ぐさい 同じメロディーがはいっている
 前回はちがうメロディーをなん回もやってしまったので
 ちがうイメージを替えました。

Dグループ

宇宙の様子を表そう

物種 (

星 ~ 平和から戦争へ ~)

・オルガン (F)	高い音 (星の様子) のぼす	オルガンのほしから はしまで チャララン	低く小さく	
・鉄きん (G)		高い音		みん なで
・大だいこ・パーチャイム (H)	パーチャイム ~ 静かに ~	スチール ドン	ドドド ~~~~~ ↑ 大きく 強く ↓ ティンパニーで ドドド ~~~~~	パーチャイム で静かに チャ ラ チャ ラ
・ティンパニー・トライアングル (I)	トライアングル ふろわす			
()				

—音楽で宇宙を表そう— 発表会

自分たちのグループの音楽は、宇宙のどんなようすを表しているのか、聞く人が分かるように説明しましょう。

星が流れ、ちかづいてくる様子...ブラックホールにすい
こまれていく様子...キケンなめにあう様子...そして...
ブラックホールをめぐりたぐり様子も表している。

自分が演奏する楽器は何を表しているのか、あるいはどんな感じを表したいか。
—ひとりひとこと—

F子 星々の神秘的な様子を表している

H子 ツリーチャイムは星の様子を表し、大だいこは、ブラックホールに
入ってキケンなめにあう様子を表している。

I子 ティンパニーで、2つの音で、2人で表すところは、ブラックホールの中で、キケンな
めにあう様子です。

G子 鉄きんでやさしい平和なようすを表している。

(3) 実践の分析

① 授業研究観察記録のまとめ

研究テーマ推進にあたり、プラスの要因

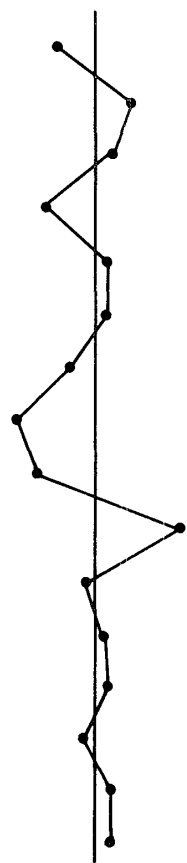
- 宇宙をそれぞれのグループで表現しようとする意欲が見られた。
- 題材の開発が大切であると思った。
- すべての子どもに演奏活動がある。
- 個々の子どもが演奏の意図、感想などを記録している。
- 本時の最初の歌唱指導の成果が観察者にも聞きとれた。
- 音楽を楽譜以外の図示による方法で表す点など、工夫がみられた。
- グループ編成上、人間関係に配慮がなされていたのではないかと。
- 時間配分に問題はあったが、十分時間をとって個の感想・思いを書かせたことはよい。
- 児童の演奏に教師の評が加えられたことは意欲につながるのではないかと。

研究テーマ推進における問題点

- 工夫点の記述に15分程度が費やされていたように思う。
- 発表直前に記す扱いの長所であろうが、練習のまとめをしたり発表の準備をしたりという活動が圧迫され削られる結果となった。書き記す場は今までの学習の中で、またはもっと簡略におさえ、しっかりと発表し感想を出し合うことを中心にした方がテーマにより即したものになると考える。
- 個の表現がどう伸びたかが見えにくかった。
- 児童の意見のからみ合いが時間内にあって欲しかった。
- 授業構成の場が、本研究（個が生きる授業場面）を進めていく上で適切なものであったかについてもう一度検討する必要があるように思われる。
- 前に掲示された図の効果はあったのだろうか。個人にプリントがあった方がよかったのではないかと。

- a 児童の実態把握ができています。
- b 個に着目した指導上の配慮がみえる。
- c 学習の流れが児童サイドで進んでいる。
- d 発想を出し合う場がある。
- e 発問・指示・助言・板書が適切、有効である。
- f 児童の発言・活動に関連性がある。
- g 児童の発言・表現は活発である。
- h 表現活動の機会を与えられる児童にかたよりが無い。
- i 学習意欲が持続している。
- j 各学習ステップへの時間配分が適切である。
- k 他の人の感想・考え・意見を聞こうとする態度がみえる。
- l こどもの発言の話し方（声の大きさ、用語など）がよい。
- m 本時の目標が達成されている。
- n 支え合い、協力し合って発想や考えを深めようとする態度がみえる。
- o 評価のしかたは適切である。
- p 個が生きる授業である。

平均



② 授業分析の観点とその考察

1) 歌唱指導における個の特性に応じた表現の工夫について

——実態をどう把握し、それをどう指導に生かしたか——

「柔らかく歌おう」「音程のつながりを意識して歌おう」という指導があった。学級全員に対する指導が中心になり、個の特性に応じた指導という面を感じ取ることができなかった。

*詳しくは「授業記録」を参照

2) 個人・グループでイメージしたことが表現できたか

① グループごとの発表において

演奏の中でイメージがどう生かされていたかを、自分達のグループの音楽は宇宙のどんな様子を表しているのかを記述する活動を通して考えると、グループによっては、学習のめあてが明確になっていないものもあった。発表するという意識はあったが、「何を」というところが、つまりイメージが曖昧だったのではないだろうか。それを改善するためには、「宇宙を表そう」という課題よりも、もっとストーリーのある場面を与えて曲を創らせたほうがよかったのではないだろうか。物語を自分達で創る・曲を創るという2つの活動を期待することも大切であろうが、1つに限定したほうが活動が豊かになったと思われる。例えば、1つの音を捜して決めるにしても、ストーリーがはっきりしていると、その必然性を全員で納得することができるし、聴くグループも観点が明確になってくる。また、ストーリーが組曲的になっていると、聴くグループも客観的に聴くだけでなく、自分達のこととして主体的に取り組めるのではないだろうか。

② 学習カードへの記述内容について

記述された内容は別紙の通りである。グループでのめあて・個人の役割やくふうしたいことを明確にしておくことは大切なことである。しかし、この活動が発表会の日に位置づけられたのは問題ではないだろうか。なぜならば、前時までの学習の中で積み上げられ修正されてきたものであって欲しいからである。また、そうすることが学習のめあてを持続させることにもつながっていく。

本時の扱いに於いても、1つのグループの発表(演奏)が終わってすぐに次のグループの説明があったので、前のグループの感想を書くことに集中して説明がよく聞けずに、演奏を聴く観点を明確にすることができていなかった。

また、前時までの学習の中にこの活動が位置づいていれば、時間的にもゆとりが生じ、指導案にもあるように練習や感想の発表ができたのではないだろうか。

3) 良さを認め合う場を設定したか

感想を発表しあう場が時間の関係で設定できなかったのは、残念であった。Cグループの感想にもあるように、良さを認めたものや改善の視点を示唆したものが書き込まれている。これらの考えを交流しあうことは、個を育成するためにも重要な活動である。

教師の感想で授業が終了したが、あの状況を考えてみると良かったのではないだろうか。賞賛が、個の育成にとって大きな役割を果たすからである。しかし、原則的にいえば、児童の意見発表の前に教師の考えを述べてしまうと、それに影響されることが多いので留意したい。

4) 創造的音楽の試みについて

「個を生かす」「個が生きる」指導に有効な指導法であるといわれている。そこで、創造的音楽についての資料を検討し、他教科についても生かせるものは学びとりたい。

(4) 実践をふりかえって

反省と課題

問題点1

音楽創りをさせる際、以下の条件を示したのは前に述べたとおりである。

- ①曲の長さは、約1分程度。長くても2分までにまとめること。
- ②音楽の流れにおいて、強（激しい部分）と弱（静かな部分）を入れること。
- ③楽器の重ね方（バランス）を工夫すること。
- ④楽器の奏法を工夫すること。

この条件を満たす以前の問題、すなわち私が最も心配していたことであるが、自分達が表したい様子・イメージがはっきりしていないと良いものにはならないということがBグループにはっきり出た。

原因

AグループとBグループは、音楽創りをする際、先ず個々の思いを出し合いグループでひとつのものにまとめるのではなしに、自分自身がイメージしたことをそれぞれがやってみたい楽器で試行錯誤したためしながらまめようとしたグループである。

実際、ためしながら考えた方が子どもによっては思考の方法として合っている子どももあり、その意味でAグループはうまくいった例で、大変まとまりもあり自分達が表現したいことがほぼ満足のいくものになっていた。

結局Bグループの場合は、ためしながら考えたけれども、イメージ不足で表現したいことが曖昧なままに終わった。

教師のイメージした音楽になってはいけないので、何度も話を聞いてはっきりしたイメージを引き出そうとしたが、うまくいかなかった。

改善案

- ① Bグループにおいては、はっきりしたイメージを持たすために十分話し合いをするようもっと強く働きかければ良かった。
- ② 授業分析の観点とその考察の頁で示してあったように、クラス全体でひとつのストーリーといったようなものを考え、それを4つの場面に分けて各グループが分担し、組曲的なものにしたら特にイメージが希薄なグループも出ないし、音楽創りを始めるのも、同時にスタートできるという利点がある。また、各グループのできた音楽を聴く際にも、客観的に聴くだけでなく、自分達のこととして主体的に聴いたり意見をいったり全員で納得できるという利点もある。

しかし、個々の自由な思いやイメージを生かした音楽創りをさせたいということからすれば、やや限定された音楽創りになるというマイナスの要素もないではない。ただBグループのようなことにはならないであろう。

問題点2

本時の学習過程において、児童相互の感想を出し合う場が、時間の関係で設定できなかった。子どもの感想を見ると、良さを認めたものや、改善の視点を示唆したものが書き込まれている。これらの考えを出し合わせることで、個を育てるとともに集団を高めることにもつながると考える。学習過程の組み方に問題があった。

原

因

① 学習過程の1で「亜麻色の風の中で」を歌ったが、本学級の児童は歌うことが大変好きな子が多く、この歌も大変好んでいる。教師としては、研究授業の緊張感をリラックスさせるために学習過程に位置付けたのであるが、予想以上に時間がかかってしまい、結果として後の学習過程の時間を圧迫する形となってしまった。

② 演奏する前に学習過程2で、学習カードに自分達のグループの音楽は、宇宙のどんな様子を表しているのかという点と、自分が演奏する楽器は何を表しているのか、あるいはどんな感じを表したいか、という2点を書かせる活動を組んだのであるが、教師は今までやってきたことを書けば良いのだから、5分程度で書けるであろうと予想していたのだが、児童は改めて書けといわれておおげさに感じたのか、戸惑いがあったようだ。また、Bグループのようにイメージが曖昧であったグループは、ここで初めてどうしてもはっきりさせないといけない状況に追い込まれた形で、困っていた。

したがって実際にはこの学習過程2で15分近く時間がかかってしまい、お互いの感想を交換し合う場を設定できなくなってしまった。教師の見通しが甘かった。

改

善

案

学習カードに書く時間を前時に設定しあらかじめ書かせておけば、時間的なゆとりが生じ、練習や感想の発表ができたであろう。また、感想を書く時間ももっと与えることが出来たように思う。

Bグループについては前にも述べた通り、もっと早い段階になんらかの方法で自分達の表したいイメージをはっきりさせておいてやる必要があった。教師の指導のまずさを反省する。

成 果

この学習の中で、一人ひとりがかかわり合ってグループ（学習集団）の中で自分のものが認められ、さらに高められ、深められて自己の存在がみんなや先生に認められ、満足感が得られ、さらに意欲が湧いてくるのが「個が生きる」ことにつながるのであるが、練習段階から発表に至るまでにおいて個が生きることがらや場面が数々あった。それは、次のような理由からであろう。

- ・未知の宇宙のことをイメージして音で表現するのが楽しい。（題材の面白さ）
- ・個人個人の思いを、グループの音楽にまとめていくことが出来るのが面白い。
- ・自分達の音楽が一応満足のいくものになった。（Bグループの子どもも、演奏は結構うまくいき、感想を見るとかなり満足していることがうかがえる。）

ことに、自分達の考えたストーリーに合わせて、電子オルガンの音色や音量・使用する楽器の重ねる数を変化させたり、途中から自分の担当する楽器を変えたりするなど、なかなか効果的に良く工夫をしていた。また、ツリーチャイムのパイプを一本一本叩いたり、サスペンドシンバルや木琴・鉄琴のマレットを途中で持ちかえるなどの奏法の工夫もしていた。また、サスペンドシンバルを音楽創りの段階で、手で引っかいたり擦ったりしていたが、教師がコントラバスの弓で擦る奏法を紹介したら、大変良い効果が出て鉄琴も弓で擦ることになった。これは、シンバルのふちや鉄琴の鍵盤のかどを弓で擦るのである、うまくやらないとなかなか良い音が出ないが、非常に不思議で幻想的な音が出る。

また発表の場面では、グループの中の一人ひとりが、お互いのかかわり（音）に細心の注意を払って演奏する真剣な姿がみられた。このことが音楽では、個を出す・個が生きる・集団に働き

かけるということだと考える。

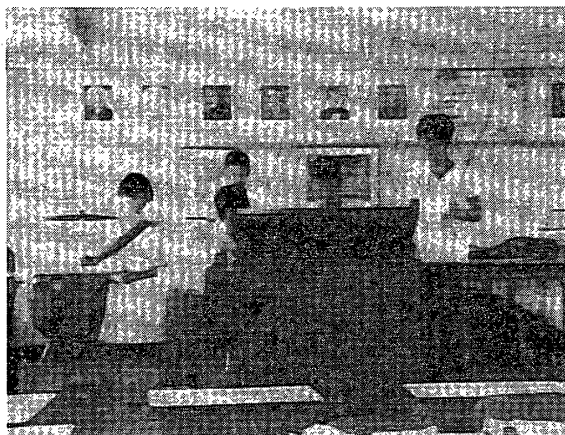
どの様な音楽が演奏されたのかを紹介できないのであるが、児童の他のグループの演奏を聞いた感想と、自分達の演奏に対する反省や感想を載せておくので推察していただきたい。

Aグループの演奏に対する感想 ()内はのべ数

- ツリーチャイム・サスペンドシンバル・トライアングルなどの合わせ方がうまかった。(1)
- ウィー(宇宙人の声)というのがうけた!面白い。(8)
- 電波を表すのがとても良かった。
- すごく神秘的というか静かで不気味な宇宙です。シンバル・鉄琴の弓を使った音がいい。(3)
- 静かで星の様子がよく表せると思う。とてもきれい。(2)
- ツリーチャイムがきれいで、星の感じがよくでていてきれいだった。(2)
- 最後の宇宙人の声が面白かった。
- 一人ひとりの楽器の使い方がいいし、面白い。
- 一人ひとりの目的がしっかりしていて、目的もしっかり達成されている。10、10、20秒と区切られていて、だいたいできていた。

Aグループの児童の反省

- ウィーはやっぱよかった。……かな?!
- ウィーがよかった、もうちょっとメロディー性を入れたかった。
- 最後がすばらしい、ウィーがきまったのでとても神秘的な音楽になった。
- ウィーは情けなかったが、うけた!!!はずかしいと思ったのに、大声で言えた。
- 思った通り神秘的な宇宙が表された。



Bグループの演奏に対する感想

- 静かな宇宙の様子で良かった。よく表している。(4)
- オルガンの音を大きくしたり、小さくしたりするところが良かったと思う。(4)
- ツリーチャイムの使い方が良い。(2)
- ツリーチャイムがめだたない。
- ものごとを表すのが、とても良くできていたなと思いました。
- Bグループと少しだけ同じような気がした。少し強弱があって良かった。(2)
- いろいろな星の様子がよく表されていた。とても良かった。オルガンやツリーチャイムが星の流れる様子をよく表していた。
- もう少し大きな音を出したらもっと良かったと思います。音の強弱をもっと加えればいいと思う。
- きれいだった。心がおちつくようだ。
- とても静かで、静かすぎる……しら——。オルガンは何を表しているのかなあ!?



Bグループの児童の反省

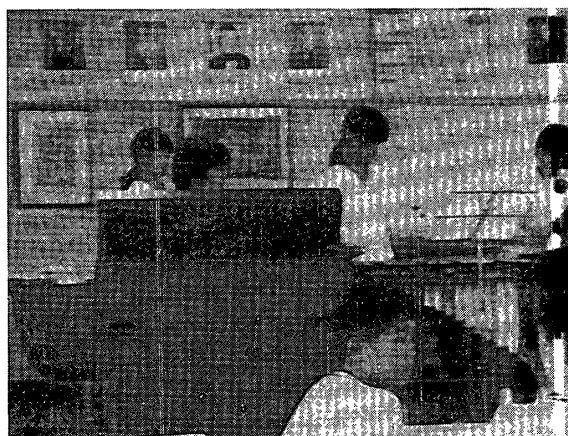
- 何回もやり直してやっとできたものだが、けっこう良かった。今度は、もっと早く完成するようになりたい。
- 上手にできたけど、静かすぎた。
- 楽譜どおりできなかった(2)。音で静かに表すはずだったのに、ほんとに何もしなくて、静かなだけで星の感じもツリーチャイムでしかでていなかった。もしかしたら、ツリーチャイムでもでていなかったかも知れない。

Cグループの演奏に対する感想

- 全体でにぎやかに星の様子をとってもよく表していると思う。少し静かにした方がいいと思う。
- その星らしい音が出て、オルガンの大きな音を中心に、他の楽器もきれいで良かった。
- はくりよくがあった。それにとってもきれいだった。(3)
- このグループもオルガンの使い方がよい。
- 一人がたくさん楽器を使ってたくさんの音が出るので、すごい音楽になって良かった。(2)
- 変動がいきなり終わったようでないような。オルガンが大きい(音)のがとてもいい。大太鼓もオーバーに音を出していたので感じが出ていた。
- ストーリーに合っていて、変動の時もよくわかった。
- 最初のミスがうけた。
- オリジナルな音楽がいいと思った。オルガンがうるさかった。

Cグループの児童の反省

- 最後のジャジャジャジャーンがあわなかった。ちょっと全体的に大きな音だったと思う。静かなところが短かったように思う。
- Nさんといっしょに最後叩くのに、叩き遅れてしまったので悪かった。でも、思ったよりうまくできた。
- 最後のところを遅れをとってしまった。(私)
- ちょっとさびしかったと思う。もっとはくりよくがあったほうがよかったんじゃないかなあー。
- 自分の思案不足！はっきりいってダメ！（情けない、事もあるうちに6年が）それと、激しい変動の部分がもう少しほしかった。

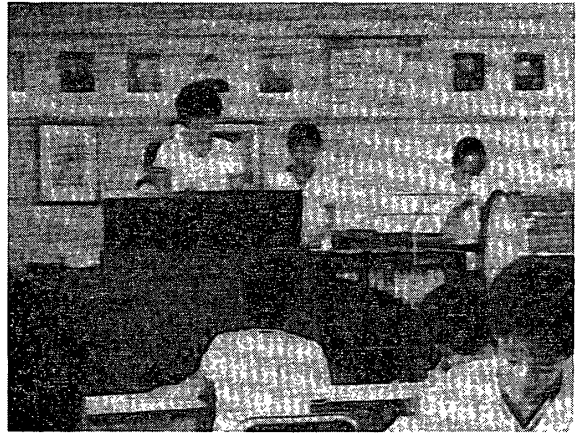


Dグループの演奏に対する感想

- ウーン、すごい！メロディーといい音の変化といいスバラシかった。そして、ブラックホールという不思議な構想がオドロイた。
- オルガンと大太鼓があって良かった。神秘的だった。カッコいい。
- 星のイメージがとても良くできていて、強弱がとてもよくついていて良かった。
- ストーリーがはっきりわかってすごくよかった。
- 星がかわいい、突然変わるのが少しおしいけど、大太鼓が迫力があつた。
- とにかくうるさくて、耳がいたくなつた。苦情を出そうかと思ったがやめた。(3)
- 腹に響いてきた。C、Dの女子のグループの方が迫力があつた。
- 見たこともないブラックホールを、よく表していた。
- 短い演奏だったが、上手だった。

Dグループの児童の反省

- 少し失敗したけど、なんとか直して良かったと思う。小さい音から急に大きくなったのは、あんまり良くなかったと思うけど、話からしてブラックホールに落ちるので、やっぱり良かった。
- 練習の時よりわりとうまくできたと思う。でも、もう少し鉄琴の音を大きくした方が良かったかも知れない。
- オルガンの音をもうひと工夫すれば良かった。全体的にこじんまりしてしまって、やってみたかった「だいたんなブラックホール」が表現しきれなかったと思う。
- ティンパニーと大太鼓がちょっと失敗したけど、あとはよくできたので良かったと思う。点をつけるなら92点ぐらいかな？



3. 成果と課題

我々の「個が生きる」というテーマの研究はまだスタートしたばかりであるが、この実践を通して確認されたことや、今後の研究の方向性を整理すると次のようになる。

個が生きる授業の要件として、次の観点を挙げ、成果と課題をまとめておく。

① 題材や指導計画を検討する

個に応じたり個を生かすためには、指導方法もさることながら、教材そのもののあり方がはるかに大きい。さまざまな特性や個性を持つ子どもに対応できるような教材を題材として取り上げたり、教師が手を加えて個に応じたり個を生かしたりできるようにする必要がある。この実践では個の思い（発想）を生かした音楽創りであったので、その点では良かったと考える。また、連続した学習とせず、時々間をおいて決して仕上げを急がせなかったことで、子どもにも無理なく学習させることができたように思う。

個に応じたり個に対応した成果を挙げるためには、どうしてもある程度の時間が必要だからである。

② 安心して自分が表現できる学級の人間関係を形成する

音楽は自己表現である。したがって、自分自身を出せないような環境では困る。安心して自分を出せる、協力的で支持的風土のある学級にするためには、日頃の教師の評価や児童相互の評価が重大な役割を持っている。他の良さを認めた感想などをできるだけ出させたり紹介したりして、互いを認めあう目を育てていきたい。その意味では、この実践での発表の時間に相互評価する場を設定できなかったことは、大変残念であった。

③ 児童理解をできるだけ深める

〈個に応じる〉にしても〈個を生かす〉にしても、それらへの対応が柔軟に、しかも適切に行われるかどうかは、児童理解の度合による。たくさんの児童を担当しているのだが、一人ひとりの音楽性や力を厳しく把握するための手だてや方法を工夫し、それによって個に応じたり個を生かしたりする教材の工夫などをし、温かく指導する努力を怠ってはならない。